

2 授業研究と協議会〈10月研究授業月間〉

地理歴史・公民科（地理B）学習指導案

日時 平成30年11月5日（月）2校時

クラス 2年AB組（選択）21名

場所 2年B組教室

授業者 教諭 三浦義則

1. 単元 資源と産業 農林水産業「ヨーロッパの農業」

2. 単元の目標

- (1)世界の農業形態について意欲的に調べることができる。【関心・意欲・態度】
- (2)世界の農業地域や農業形態を成立させている自然環境や社会環境とその関係について考察し表現できる。【思考・判断・表現】
- (3)写真、分布図、グラフなどの統計データを適切に活用して、世界の農業の特色や地域性について分析することができる。【技能】
- (4)世界の農業の特色について理解し基本的な知識を身に付けている。【知識・理解】

3. 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
歴史的・地理的事象に対する関心と課題意識から課題を高め、意欲的に追究している。	歴史的・地理的事象から課題を見だし、我が国及び世界の形成の歴史と生活・文化の地域的特色を多面的・多角的に考察している。	歴史的・地理的事象に関する資料を収集し、有益な情報を適切に選択して適切に活用している。	我が国及び世界の歴史と地理的特色についての基本的な事柄を理解し、知識を身に付けている。

4. 生徒と単元

- (1)2年文系クラスの選択21名と少ない。生徒の半分以上が運動部であり、勉強時間不足などの理由で考査の成績は必ずしも良好とはいえない。しかし、地理に対する関心は極めて高く、発言も活発であり、諸資料を調べて自分で発表する能力は決して低くはない。一方で、授業への姿勢が持続せず、元気すぎて時に私語が多いという欠点もあるが、生徒とのコミュニケーションをうまく図りながら前述の長所を伸ばしていきたいと思う。
- (2)ヨーロッパの農業に限らず、昨今の生徒は農業に対し具体的な体験や知識に乏しい。そのため作物や家畜の特性を具体的に、できれば視覚的に示しながら指導する必要がある。地理の学習では多くの分布図やグラフなどを使うが、複雑だったり字が小さく見にくかったりで生徒が見るのを嫌がり、授業者自身も資料を使わず用語の解説や内容を板書する授業に終始することが多い。地理の授業では資

料を生徒にとってわかりやすく、しかも興味を持つように「リアルに見せる」ことが何より大切である。これらのことから、授業者はパワーポイントを使って大画面で黒板に資料を提示し、生徒に考えさせる授業をここ何年か模索しているが、本授業はその試みの授業の一つである。

5. 本時の計画

(1) 本時の目標

ヨーロッパの農業の特色について自然環境、社会環境との関係から調べ、地域性について考察できる。

(2) 学習過程

過程	生徒の学習活動	教師の支援	評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> ヨーロッパの農業を紹介した写真から、多様な農業形態に関心を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> できるだけ多くの国の特色ある農業を紹介する。 	
展開	<ul style="list-style-type: none"> 分布図から、作物限界、農業形態の分布などを考える。 農業人口率、耕地率、作物自給率などから各国の農業の特色を考え、答えとともに考えた根拠を発表する。 生産性から見たヨーロッパ農業の地域性を読み取り、その要因について考察し発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 農産物の分布や農業形態が気候、地形などの自然環境や都市近郊などの社会的環境と関連があることに気づかせる。 既習の内容を生かして各国の農業の特色を考えさせるようにアドバイスをする。 生産の違いが何に起因するのか、経営の特色などから考察するようにアドバイスをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 分布図から農業地域の基本的な特色を理解できる。 【知識・理解】 様々な指標からヨーロッパの農業の特色を考察できる。 【思考・判断・表現】【技能】 生産性の違いからヨーロッパの農業の特色を考察できる。 【思考・判断・表現】【技能】
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> プリントのまとめ 振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的知識の確認 	

6. 協議（欠席した参観者からの意見を含む）

授業者：普段は黒板に写真を提示しただけで活発な発言があるが、今日は大勢の先生に参観されたためか静かであった。本校では私のように日常的にパワーポイントを使って授業をしている人はいないので、研究授業ではあるが、普段通りの授業スタイルで授業を行った。「考えさせる」といっても、大事なのはそのための仕掛けである。前半は講義式でヨーロッパ諸国の農牧業を紹介し、その知識を応用して資料から考察させる段取りであったが、時間が足りず十分に考察させることができなかった。1時間の授業であれば、前半部の説明部の内容を精選するなど工夫すべきであったと思う。

和田校長：大変良かった。投影された文字の大きさについて、生徒たちは見えているだろうか。その部分を拡大してみるのもよいのでは。下を見ている生徒が見られた。

佐藤和実副校長：地理で出てくる言葉は生徒に全くなじみがないので、画像を見せたことは理解につながると思う。グループワークをさせるとすれば、「ヒントなし」という課題ではなく、複数の資料やデータなどをもとにして答えが単語でなく文章の形で答えが出る形が有意義かと思う。

赤坂教頭：いつもパワーポイントを用いて授業を行っていることで、非常にテンポ良く授業が展開されていた。板書していたのでは、あのテンポは出せないだろう。

後藤：写真・グラフなど資料がとてもきれいで見やすい。生徒がスクリーンを見る時間、話を聞く時間が多くよい。

佐藤幸彦：図・資料などきめ細かい準備が必要な授業で、とても感心させられた。生徒たちの視線（表情）も前を向き、積極的に参加しているように見えた。板書を移すロボットになってはいけないという先生のお言葉が非常に印象強く残っている。

川井：パワーポイントを用いることでテンポよく授業が進んでいた。写真を見せながら説明されていたので、生徒たちが非常に高い関心を持って臨んでいたと思う。普段はもっと活発に生徒たちが参加しているだろうと、先生の問いかけから感心した。本日のメインともいえる表の読み取りが出来ずに終わってしまい残念だった。生徒たちからどのような分析（判断）結果が出るのか、その根拠を示すのか見てみたかった。

佐々木周子：資料の豊富さに驚いた。特に地理は身近なようでイメージしづらい用語もあるので、具体的に写真で提示することは有効だと思う。私もやりたいが、日々の準備が大変になるため毎時ではできない。これを毎時間やるのはすごい。最後の15分ほどしか見に行けず申し訳なかったが、最後に国名を考える場面をもっと見たかった。しかし、事前の知識がないと考えられないので、受講メンバーを考えても基礎基本に重きをおいた授業が致し方ないと思う。

高野：三浦先生がいつもスクリーンやプロジェクターを授業に持ち込んでいらっしゃるのを見て、いつか中身を拝見したいと思っていたところ念願がかなった。私も映像等で重要事項を示すことの重要性を感じており、自分の授業ではできていない課題の一つと思っているが、今日の授業で改めて外国等の実際の写真や複雑な資料をスクリーン上で瞬時に示すことの説得力を再認識した。今後少しずつ取り入れていきたいと思う。

工藤雅文：生徒の視覚を刺激しつつ、ポイントを絞り分かりやすい素晴らしい授業だった。大人の私も引き込まれた。反面、生徒の理解力に問題があるかもしれないが、知識が定着していないのが気になった。